

こんにちは。国連難民高等弁務官事務所親善大使を務めています MIYAVI と申します。この度、UHC Day、国連が定めたユニバーサルヘルスカバレッジという世界中どこにいても同じ水準で医療制度を受けられるようにしていこうという動きをもったこの日にですね、今回日本の医学生連盟の方々から、熱意を持った方々から依頼を受けてこのコメントをさせてもらってます。

自分自身もロックスターとして、そして国連難民高等弁務官事務所 UNHCR の親善大使として、これまで難民キャンプ、レバノン、タイ、バングラデシュ、ケニア等、難民キャンプですね、住むところを追われて知らない国で苦しい生活を余儀なくされている人たちの住む所を訪問させてもらっています。その中で、やはりその医療制度ですね、衣食住、ライフラインとともに保健医療、病気をしたり、風邪をひいたり、熱を出したり、色々な怪我をしたりした時に医療にアクセスできない、病院に行きたくても病院に行くお金がない。そもそも病院自体がないっていう状況で生きている人たち等を目の当たりにしてきました。

僕自身も、日本に生まれて日本で育って、アメリカに移住をしたんですけども、なかなか日本の外に出て、アメリカだったりそういう先進国に暮らしていても、ある種、例えば病院に行く時の診療代がすごく高かったり、それによってそういった病院での治療を受けられないお年寄りや子供たちがいる現状です。これは、難民の方々が住まれているところだけじゃなく、世界中で起こっている問題です。いかに日本にいて当たり前前にこの恩恵を受けている僕たちが、もっと知ることによってもっと世界に発信していけることって沢山あるんじゃないかなと思います。

本当に命が危なかったり、あとは怪我したり病気した時にちゃんとした医療を受けられること、それを当たり前前に世界に広めていくこと、すごく大事だと思います。UHC Day、この日をきっかけに、より沢山の人のこの動きとキャンペーンですね、世界中に同じ水準で医療を受けられる制度をもっともっと広めていくこのキャンペーンを、もし皆さんも興味があれば是非チェックして一緒に参加して欲しいなと思います。MIYAVI でした。